

平成 31（令和元）年度  
豊島区動植物生態調査報告書

令和 2 年 3 月



平成 31（令和元）年度 豊島区動植物生態調査 報告書  
目次

<b>第Ⅰ章 調査の目的および概要</b>	
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の概要	1
<b>第Ⅱ章 調査の内容</b>	
1. 調査の対象および方法	2
(1) 植物	2
(2) 昆虫類（大型種）	2
(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）	2
(4) 水生生物調査	2
2. 調査地	
(1) 南長崎はらっぱ公園	3
(2) 池袋本町小学校	4
3. 調査期間	5
4. 確認種の評価方法	6
(1) 国および都レッドリスト記載種	6
(2) 外来種	7
<b>第Ⅲ章 動植物生態調査結果</b>	
1. 植物調査	9
(1) 調査結果概要	9
(2) レッドリスト記載種	15
(3) 外来種	17
(4) 各調査地の植物確認状況	22
(5) 植物調査のまとめ	28
2. 昆虫類調査	30
(1) 調査結果概要	30
(2) レッドリスト記載種	30
(3) 外来種	30
(4) 各調査地の昆虫類確認状況	32
(5) 昆虫類調査のまとめ	33
3. その他小動物調査	37
3-1 哺乳類	37
3-2 爬虫類	37
3-3 両生類	37
(1) 調査結果概要	37
(2) レッドリスト記載種および外来種	37
(3) 両生類調査のまとめ	38

4. 水生生物調査	39
(1) 調査結果概要	39
(2) レッドリスト記載種	39
(3) 外来種	41
(4) 各調査地の水生生物確認状況	42
(5) 水生生物調査のまとめ	44
5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案	
(1) 南長崎はらっぱ公園	47
(2) 池袋本町小学校	48

## 第 I 章 調査の目的および概要

### 1. 調査の背景と目的

本調査は、平成 31（2019）年 3 月策定の「豊島区環境基本計画」の施策をふまえ、生物多様性に関する情報収集のためのモニタリング調査を目的としている。

平成 27 年度までに、区内の特に重要と思われる緑地は調査を概ね終了した。しかし、区の西部の小規模の緑地については生物相が把握されていないことから、平成 28 年度には区内西部に 1.5km 程度のルートを設定し、昆虫類や小動物の調査を行った。平成 29～30 年度には区西部に位置する南長崎はらっぱ公園ビオトープにおいて生物多様性保全に配慮した維持管理と植物の概況調査および水生生物調査を行った。

「豊島区環境基本計画 2019-2030」では、生物多様性を保全する重点施策の中に「自然環境の保全と創出」を掲げ、区有施設ビオトープの整備と維持管理が進められている。区有施設ビオトープの中の学校ビオトープについてもモニタリング調査が今年度開始されることとなった。

今年度は、区有施設ビオトープのうち、南長崎はらっぱ公園全域と区立池袋本町小学校のビオトープを選定し、その動植物相の把握を目的とした。

### 2. 調査の概要

調査の対象とした分類群は、植物、昆虫類（大型種）、その他の小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）、水生生物（魚類、水生昆虫類、甲殻類等）である。各分類群で年 2 回とし、それぞれの特徴を把握するために最適な時期を設定した。調査工程を表Ⅱ－2－1 に示した。

表Ⅱ－2－1 動植物生態調査の工程

調査項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植 物											
昆虫類											
水生生物											
その他小動物											

## 第Ⅱ章 調査の内容

### 1. 調査の対象および方法

#### (1) 植物

調査対象は、維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）とした。なお、対象とした種は、自生種と植栽種とした。自生種は、在来種の他、外来種、逸出種を含む。

これまでの調査地では、外来の園芸用の草本類は観賞目的で入れ替わりが激しく、その調査地の植物の自生状況を把握する上では重要でないため、除外していた。しかし、周囲に緑地の少ない都市部のビオトープでは吸蜜昆虫などがこれらに飛来する効果があること、また、外来の園芸用の草本類が野生化する恐れもあることから将来的な維持管理の観点からも、記録を行った。これらが、逸出して自生状態にある場合は、逸出種として、記録を行った。植栽種の判断は、調査地の立地条件、植物の分布域、栽培品種・外来種であるか否か、花壇や植栽地に列になって生育しているかなど、植栽と思われる状況などをもとに行った。

調査方法は、調査地を踏査し、目視による種の確認を行った。

#### (2) 昆虫類（大型種）

調査方法は、任意採集による見つけ採り法、スウィーピング法を用いた。対象とする昆虫類は、生態に関する知見が比較的蓄積されている大型昆虫（トンボ類、カマキリ類、バッタ類、セミ類、カメムシ類、チョウ類など）を基本とした。訪花性昆虫を調べるため、ハナアブ類、ハチ類なども記録した。

※スウィーピング法：捕虫網により、樹上や草地にいる昆虫類をすくい捕って採集する調査方法

#### (3) その他の小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）

昆虫類調査および水生生物調査時に並行して実施した。調査方法は、調査対象地を踏査し、目視による種の確認を行った。

#### (4) 水生生物調査

魚類、水生昆虫類、甲殻類等、肉眼で目視できる水生生物を対象とした。

調査方法は、タモ網及び魚用小型網を捕獲する方法とした。捕獲後、記録および写真撮影を行い、アメリカザリガニは駆除、それ以外の生物は池に戻した。

## 2. 調査地

各調査地の概要を以下に示した。

### (1) 南長崎はらっぱ公園（南長崎6丁目1番地20号）

敷地面積：5,734 m<sup>2</sup>

南長崎はらっぱ公園は豊島プール（2000年に老朽化のため廃止）の跡地で地域住民参加のワークショップによる公園計画づくりが行われ、2010年7月にオープンした。ビオトープは地域住民による区民協働により同年11月に造られた。

ビオトープ全体は約170 m<sup>2</sup>で池は約40 m<sup>2</sup>である。池の水は井戸水が利用されており、定期的に地域の区民団体である「南長崎はらっぱ公園を育てる会」により補給されている。池の南東部にある島の北東側が最も深く、泥の表面から約40cmの水深であった。柔らかい泥が積もっており、10cmほど足が沈み込む状態であった。

公園全体としては名前のおり広い草地の広場が中心となっている。ビオトープ池に隣接して花壇が整備されている。公園の西側には「いのちの森植樹」が行われ、照葉樹が中心に植栽されている。



ビオトープ



ビオトープ脇の花壇



いのちの森



草地

図Ⅱ-2-1 調査地の写真（南長崎はらっぱ公園）

## (2) 池袋本町小学校

敷地面積:約 12,000 m<sup>2</sup>

平成 26 年 4 月に池袋第二小学校と文成小学校が統合し、新設された小学校である。

池と水田、飼育小屋が整備された約 340 m<sup>2</sup>のビオトープが校庭の一角に造られている。池の開水面は約 35 m<sup>2</sup>、水田は約 40 m<sup>2</sup>である。

校舎の東側の外構部には平成 21 年 (2009) 年 4 月に、敷地の東南部のグラウンドに沿って平成 30 (2018) 年 7 月に「学校の森」記念植樹が行われている。



池



水田



校舎東側の植栽



グラウンド沿いの植栽

図 II - 2 - 2 調査地の写真 (池袋本町小学校)

### 3. 調査期間

- ・植 物：春期調査 令和元年 5月 23日（南長崎はらっぱ公園）、  
6月 4日（池袋本町小学校）  
秋期調査 令和元年 10月 17日（池袋本町小学校、南長崎はらっぱ公園）  
10月 21日（南長崎はらっぱ公園）
- ・昆 虫 類：夏期調査 令和元年 7月 29日  
秋期調査 令和元年 9月 25日
- ・水生生物：秋期調査 令和元年 9月 25日  
冬期調査 令和2年 2月 21日

※その他の小動物調査は昆虫類、水生生物調査と並行して実施した。

#### 4. 確認種の評価方法

国および都のレッドリスト記載種の抽出、外来種の抽出を行い、区内の動植物相を考察する一助とした。

##### (1) 国および都レッドリスト記載種

環境省が作成している各分類群のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物種のリスト 以下、国 RL とする）と、東京都が作成しているレッドリスト（以下、都 RL とする）に記載されている種の抽出を行った。表Ⅱ－3－1に各カテゴリーの基本概念を示した。

表Ⅱ－3－1 国および都レッドデータブックのカテゴリーの基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去の環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧
ランク外 (都RLのみ)	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し (都RLのみ)	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 (都RLのみ)	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った。

## (2) 外来種

外来種とは、「もともとその地域にいなかったが、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のこと」をいう。

生物多様性基本法に基づき策定された「生物多様性国家戦略 2012-2020」には、外来種による生態系等への影響は、我が国の生物多様性が直面する重大な危機の1つとして位置づけられている。

外来種のうち、特に注意が必要な種として、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、「外来生物法」とする)で指定された特定外来生物<sup>※1</sup>および未判定外来生物<sup>※2</sup>が挙げられる。また、環境省及び農林水産省が作成・公表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(以下、「生態系被害防止外来種リスト」とする)に記載されている種(本リストは特定外来生物・未判定外来生物を含む)の抽出を行った。このリストにある特定外来生物・未判定外来生物以外は法的な規制がないものの、これらの分布状況を把握しておくことで、生態系への影響の広がりを未然に防止するための一助となる。

表Ⅱ-3-2に各カテゴリーの概念を示した。

**※1 特定外来生物**：外来生物(海外起源の外来種)であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれる。飼育、栽培、保管及び運搬、輸入が原則禁止されている。また、野外へ放つ、植える及びまくこと、譲渡し、引渡しなどをすることが禁止され、許可を受けて飼養等をする場合は個体識別等の措置を講じる義務がある。

**※2 未判定外来生物**：特定外来生物とは別に、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物の中から指定される。輸入する場合は事前に主務大臣に対して届け出る必要がある。届出がされた場合は、主務大臣が判断し、影響を及ぼすおそれがある場合は特定外来生物に指定され、輸入等について規制される。影響を及ぼすおそれがないと主務大臣が判断した場合は、特に規制はかからない。

### 【参考文献等】

- ・東京都環境局自然環境部 編(2013)：レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生動植物種(本土部)解説版，東京都環境局自然環境部。
- ・環境省 web サイト：日本の外来種対策 外来生物法  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1law/index.html>
- ・環境省 web サイト：日本の外来種対策 生態系被害防止外来種リスト  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>
- ・国立環境研究所侵入生物データベース <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>
- ・日本生態学会 編(2002)：外来種ハンドブック，地人書館。

表Ⅱ-3-2 生態系被害防止外来種リストの各カテゴリーの概念

カテゴリー	概念
(1) 定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
(i) 侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
(ii) その他の定着予防外来種	侵入の情報はあるが、定着は確認されていない種。
(2) 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。
(i) 緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
(ii) 重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方に基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
(iii) その他の総合対策外来種	総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種に該当しないもの。
(3) 適切な管理が必要な産業上 重要な外来種 (産業管理外来種)	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方：

(被害の深刻度に関する基準)

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす  
(対策の実効性、実行可能性)
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

## 第三章 動植物生態調査結果

### 1. 植物調査

#### (1) 調査結果概要

植物は変種<sup>※1</sup>を含め 98 科 313 種 315 種類が確認された（表Ⅲ－1－1）。基本的に品種<sup>※2</sup>は数に含めなかったがエドヒガンとシダレザクラ（エドヒガンの栽培品種）は豊島区に縁の深いサクラであり、植栽されていたため、記録を行った。変種を含める理由は、生育環境の違いによる分布域の違いなどを把握できるためである。変種を含める場合は種数でなく、種類数という表記となる。今回の調査では、中国原産でクチナシの変種であるコクチナシが含まれる。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園で 215 種 216 種類、池袋本町小学校で 197 種 198 種類であった。

※1 変種：種の基準標本との形態的差異があり、地理的に分布の異なる場合変種とする。植物で用い、種名または亜種名の次に var. (varietas) と記す。

※2 品種：花の色の違いなどごく一部のみの違いがある個体を品種という。普通は独自の分布域をもたず、同じ種のお他個体の中に混生していることもある f. (forma) と記す。

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(1/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	外来種	備考
トクサ	1	スギナ	●	●		
ヒメシダ	2	ヒメシダ		●		
メシダ	3	イヌワラビ	●	●		
イチョウ	4	イチョウ	●	●		植栽
ヤマモモ	5	ヤマモモ	●	●		植栽
クルミ	6	オニグルミ	●			植栽
ヤナギ	7	シダレヤナギ		●		植栽
カバノキ	8	ハンノキ		●		植栽 都RL(区部):VU
フナ	9	スダジイ	●	●		植栽
	10	マテバシイ	●	●		植栽
	11	アカガシ	●	●		植栽
	12	クヌギ	●			植栽
	13	アラカシ	●			植栽
ニレ	14	シラカシ	●	●		植栽
	15	ムクノキ	●			
	16	エノキ	●	●		
クワ	17	ケヤキ	●	●		植栽
	18	クワクサ	●	●		
タデ	19	ヤマグワ	●			
	20	ミュウレンベッキア属の一種	●		○	植栽 ワイヤープランツ
ヤマゴボウ	21	ミズヒキ	●	●		
	22	サクラタデ		●		植栽 都RL(区部):VU
	23	イヌタデ	●	●		
ヤマゴボウ	24	ヨウシュヤマゴボウ	●		○	
オシロイバナ	25	オシロイバナ	●		○	
スベリヒユ	26	ハナスベリヒユ	●		○	植栽
	27	ハゼラン		●	○	
ナデシコ	28	スイセンノウ	●		○	植栽
	29	ツメクサ	●			
アカザ	30	ホウキギ	●			植栽
	31	シロザ	●	●		
ヒユ	32	ヒナタイノズチ	●	●		
	33	ホナガイヌビユ		●	○	
モクレン	34	コブシ	●	●		植栽
マツバサ	35	サネカズラ		●		植栽
シキミ	36	シキミ		●		植栽
クスノキ	37	クスノキ	●	●		植栽 一部逸出(南長崎)
	38	ヤブニツケイ		●		植栽
	39	タブノキ	●	●		植栽
	40	シロダモ	●			植栽
キンポウゲ	41	ウマノアシガタ		●		植栽
メギ	42	ナンテン	●	●		植栽
アケビ	43	アケビ		●		植栽
	44	ミツバアケビ	●			植栽
	45	ムベ	●	●		植栽
ツツラフジ	46	アオツツラフジ		●		(植栽)
スイレン	47	スイレン属の一種①		●	総合-重点	植栽 園芸スイレン
	48	スイレン属の一種②	●		総合-重点	植栽 園芸ヒメスイレン
ドクダミ	49	ドクダミ	●	●		
	50	ハンゲショウ	●	●		植栽 都RL(区部):CR
センリョウ	51	センリョウ	●	●		植栽
ツバキ	52	ヤブツバキ	●	●		植栽
	53	サザンカ	●	●		植栽
	54	ヒサカキ	●	●		植栽
	55	モッコク	●			植栽
オトギリソウ	56	ビヨウヤナギ	●		○	植栽
ケシ	57	タケニグサ	●			
	58	ナガミヒナゲシ	●		○	
アブラナ	59	ナズナ	●			
	60	カラクサナズナ	●		○	
	61	マメゲンバイナズナ	●		○	
	62	イヌガラシ	●			
スズカケノキ	63	モミジバスズカケノキ	●		○	植栽
ベンケイソウ	64	メキシコマンネングサ	●		○	
ユキノシタ	65	ヒメウツギ	●			植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(2/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	外来種	備考
ユキノシタ	66	アジサイ	●	●		植栽
	67	バイカウツギ	●			植栽
トベラ	68	トベラ	●			植栽
バラ	69	キンミズヒキ		●		植栽
	70	ボケ	●			植栽
	71	カリン		●		植栽
	72	ヘビイチゴ	●			
	73	ビワ	●		産業	植栽
	74	ヤマブキ	●	●		植栽
	75	ヒメリンゴ		●		植栽
	76	ハナカイドウ		●		植栽
	77	レッドロビン	●	●	○	植栽
	78	ミツバツチグリ		●		植栽
	79	オヘビイチゴ		●		(植栽)
	80	ヤマザクラ	●	●		植栽
	81	カワツザクラ		●		植栽
	82	ウメ	●	●		植栽
	83	エドヒガン		●		植栽 都RL(区部):非分布
	84	イトザクラ		●		植栽 シダレザクラ エドヒガンの栽培品種
	85	ソメイヨシノ	●	●		植栽
	86	ヒマラヤトキワサンザシ	●		総合-その他	植栽
	87	モッコウバラ	●		○	植栽
	88	ノイバラ		●		植栽
	89	ナワシロイチゴ		●		
	90	ワレモコウ		●		植栽
	91	ナナカマド	●			植栽
92	シモツケ	●			植栽	
93	ユキヤナギ		●		植栽	
マメ	94	ネムノキ	●	●		植栽、逸出(池袋本町小)
	95	ヤブマメ		●		
	96	ツルマメ		●		
	97	ハリエンジュ	●		産業	
	98	エンジュ	●		○	植栽
	99	シロツメクサ	●		○	植栽
カタバミ	100	ヤブツルアズキ		●		(植栽)
	101	カタバミ	●	●		
	102	ムラサキカタバミ	●	●	○	
フウロソウ	103	オッタチカタバミ	●	●	○	
	104	アメリカフウロ	●	●	○	
トウダイグサ	105	ゲンノショウコ	●	●		植栽
	106	エノキグサ	●	●		
	107	コニシキソウ		●	○	
	108	オオニシキソウ		●	○	
	109	アカメガシワ	●	●		
	110	ブラジルコムカンソウ	●	●	○	
ユズリハ	111	コムカンソウ		●		
ユズリハ	112	ユズリハ	●	●		植栽
	113	ユズ		●		植栽
	114	ナツダイダイ	●	●		植栽
ニガキ	115	サンショウ	●			
	116	シンジュ	●		○	
センダン	117	センダン	●			植栽、逸出(池袋本町小)
カエデ	118	トウカエデ	●	●	○	植栽
	119	イロハモミジ	●	●		植栽
モチノキ	120	イヌツゲ		●		植栽
	121	モチノキ		●		植栽
	122	クロガネモチ		●		植栽
	123	マサキ	●	●		植栽
ニシキギ	124	マユミ	●			植栽
ツゲ	125	フッキソウ		●		植栽
ブドウ	126	ノブドウ		●		
	127	ヤブガラシ	●	●		
アオイ	128	フヨウ	●		総合-その他	
	129	ムクゲ	●		○	植栽
	130	ミナミフランスアオイ	●		○	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(3/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	外来種	備考
アオギリ	131	アオギリ		●		植栽
スマレ	132	アメリカスマレサイシン	●		○	
	133	パンジー	●		○	植栽
ウリ	134	ツルレイシ		●		植栽 ゴーヤ
ミソハギ	135	サルスベリ	●			植栽
	136	ミソハギ		●		植栽
ザクロ	137	ザクロ	●	●		植栽
アカバナ	138	チョウジタデ		●		(植栽)
	139	ユウゲショウ	●		○	
ミズキ	140	アオキ	●	●		植栽
	141	ヤマボウシ	●	●		植栽
	142	ミズキ	●			植栽
	143	サンシュユ	●			植栽
ウコギ	144	カクレミノ	●	●		植栽
	145	ヤツデ	●	●		植栽
セリ	146	セリ	●	●		植栽
カンナ	147	カンナ	●		○	植栽
ツツジ	148	アセビ	●			植栽
	149	サツキ	●	●		植栽
	150	キリシマツツジ		●		植栽
	151	オオムラサキ	●	●		植栽
ヤブコウジ	152	マンリョウ		●		植栽
	153	ヤブコウジ		●		植栽
サクラソウ	154	オカトラノオ	●			植栽
	155	コナスビ	●	●		
カキノキ	156	カキノキ	●			植栽
モクセイ	157	シマトネリコ	●			逸出
	158	ヤマトアオダモ		●		植栽
	159	ハゴロモジャスミン	●		○	植栽
	160	ネズミモチ		●		植栽
	161	トウネズミモチ	●	●		総合-重点
	162	キンモクセイ	●	●		植栽
ミツガシワ	163	ミツガシワ	●			植栽 都RL(区部):CR
キョウチクトウ	164	ニチニチソウ		●	○	植栽
	165	キョウチクトウ		●	○	植栽
	166	テイカカズラ	●	●		植栽
	167	ヒメツルニチニチソウ		●	○	植栽
アカネ	168	クチナシ	●	●		植栽
	169	コクチナシ	●			植栽
	170	ヘクソカズラ	●	●		
	171	クササンタンカ	●		○	植栽 ペンタス
	172	アカネ		●		(植栽)
ハナシノブ	173	シバザクラ	●		○	植栽
ヒルガオ	174	コヒルガオ	●	●		
	175	アオイゴケ属の一種	●		○	
	176	アメリカンブルー	●		○	植栽 エボルブス
	177	アサガオ	●	●		総合-重点
	178	マルバアサガオ	●			総合-重点
	ムラサキ	179	キュウリグサ	●		
クマツヅラ	180	コムラサキ	●	●		植栽
	181	ムラサキシキブ	●	●		植栽
シソ	182	セイヨウキランソウ	●		○	
	183	クルマバナ		●		植栽
	184	カキドオシ	●			
	185	ホトケノザ	●			
	186	コショウハッカ	●		○	植栽 ブラックペパーミント
	187	ヒメジソ	●			
	188	シソ	●	●		
	189	ハナトラノオ	●		○	植栽
	190	ウツボグサ		●		植栽
	191	メドーセージ	●	●	○	
	192	アキノタムラソウ		●		植栽
193	ヒゴロモソウ	●		○	植栽(サルビア赤花)	
ナス	194	ニオイバンマツリ	●		○	植栽
	195	アメリカイヌホオズキ	●		○	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(4/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	外来種	備考	
ナス	196	ワルナスビ		●	○		
	197	イヌホオズキ		●			
	198	テリミノイヌホオズキ	●		○		
ゴマノハグサ	199	アメリカアゼナ		●	○		
	200	トキワハゼ	●	●			
	201	オオカワヂシャ	●			総合-緊急 特定外来	
	202	タチイヌノフグリ	●	●	○		
	203	オオイヌノフグリ	●	●	○		
キツネノマゴ	204	キツネノマゴ		●			
オオバコ	205	オオバコ	●	●			
スイカズラ	206	ハナゾノツクバネウツギ	●	●	○	植栽 アベリア	
	207	スイカズラ		●			
	208	ツキヌキニンドウ	●		○	植栽	
	209	ガマズミ	●			植栽	
	210	ハコネウツギ		●		植栽	
キキョウ	211	ホタルブクロ		●		植栽	
	212	ベニバナサワギキョウ	●		○		
	213	キキョウソウ		●			
キク	214	ムラサキカッコウアザミ	●			総合-その他	
	215	ヨモギ	●	●			
	216	ノコンギク		●		植栽	
	217	ヒロハホウキギク	●	●			
	218	ブラキカム チェリッシュ	●		○	植栽	
	219	アメリカオニアザミ		●		総合-その他	
	220	アレチノギク		●	○		
	221	オオアレチノギク	●	●	○		
	222	キバナコスモス		●	○		
	223	アメリカタカサプロウ		●	○		
	224	ヒメムカシヨモギ	●	●	○		
	225	ハルジオン	●	●	○		
	226	マルバフジバカマ	●			総合-その他	
	227	ツワブキ	●			植栽	
	228	ハキダメギク	●	●	○		
	229	ハハコグサ		●			
	230	セイタカハハコグサ	●		○		
	231	チチヨグサモドキ		●	○		
	232	ウラジロチチヨグサ	●	●	○		
	233	ニガナ		●		(植栽)	
	234	ユウガギク		●		植栽	
	235	ノボロギク		●	○		
	236	セイタカアワダチソウ	●	●		総合-重点	
	237	オニノゲシ	●	●	○		
	238	ノゲシ	●	●			
	239	ヒメジョオン	●	●		総合-その他	
	240	コウオウソウ属の一種	●		○	植栽 マリーゴールド	
	241	セイヨウタンポポ	●	●		総合-重点	
	242	オニタビラコ	●	●			
	243	ヒヤクニチソウ属の一種	●		○	植栽 ジニア	
	ユリ	244	アガパンサス属の一種	●		○	植栽
		245	ノビル	●			
		246	ドイツズラン	●		○	植栽
247		ヤブカンゾウ		●		植栽	
248		コバギボウシ	●	●		植栽	
249		ヤブラン	●	●		植栽	
250		ハタケニラ	●		○		
251		ジャノヒゲ	●			植栽	
252		ナガバジャノヒゲ	●			植栽	
253		ツルボ		●		(植栽)	
リュウゼツラン	254	アツバキミギヨラン	●			総合-重点 植栽	
ヒガンバナ	255	ヒガンバナ	●			植栽	
	256	タマスダレ	●		○	植栽	
ヤマノイモ	257	ナガイモ		●			
ミズアオイ	258	コナギ		●		(植栽)	
アヤメ	259	シャガ	●			植栽	
	260	キシノウエ	●			総合-重点	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(5/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	外来種	備考
アヤメ	261	ヒメヒオウギズイセン	●		総合-その他	
イグサ	262	クサイ	●			
ツユクサ	263	ツユクサ	●	●		
	264	ノハカタカラクサ	●		総合-重点	
イネ	265	アオカモジグサ	●	●		
	266	カモジグサ		●		
	267	ヌカボ		●		
	268	ノハラスズメノテッポウ		●		
	269	メリケンカルカヤ		●	総合-その他	
	270	コブナグサ	●	●		
	271	コバンソウ	●		○	
	272	イヌムギ	●		○	
	273	ジュズダマ	●			
	274	メヒシバ	●	●		
	275	コメヒシバ	●	●		
	276	アキメヒシバ		●		
	277	イヌビエ		●		
	278	オヒシバ	●	●		
	279	トボシガラ		●		
	280	チガヤ	●			
	281	アゼガヤ		●		(植栽) 都RL(区部):NT
	282	ネズミムギ	●		○	
	283	ホソムギ		●	○	
	284	ササガヤ	●			
	285	ヒメアシボソ		●		(植栽)
	286	オギ	●			
	287	タカノハススキ	●			植栽
	288	コネズミガヤ	●		○	
	289	イネ		●		
	290	ヌカキビ	●	●		
	291	シマスズメノヒエ	●		総合-その他	
	292	スズメノヒエ		●		(植栽)
	293	ヨシ	●			
	294	アズマネザサ	●	●		
	295	スズメノカタビラ	●	●		
	296	ヒエガエリ	●			
	297	アキノエノコログサ	●	●		
	298	キンエノコロ		●		
	299	エノコログサ	●	●		
	300	カニツリグサ		●		(植栽)
	301	ナギナタガヤ		●	産業	
	302	シバ		●		植栽
	303	コウライシバ	●	●		植栽
ヤシ	304	シュロ		●	国内-総合-その他	植栽
サトイモ	305	テンナンショウ属の一種		●		(植栽)
ミクリ	306	ミクリ	●			植栽 国RL:NT 都RL(区部):NT
ガマ	307	ヒメガマ	●			植栽
カヤツリグサ	308	ナキリスゲ	●			植栽
	309	ヒメクグ		●		
	310	タマガヤツリ		●		(植栽)
	311	コゴメガヤツリ		●		
	312	カヤツリグサ		●		
	313	ハマスゲ		●		
	314	フトイ	●			植栽
ラン	315	シラン	●			植栽 国RL:NT
98		313種315種類	215種216種類	197種198種類	102	

国RL: 環境省レッドリスト 都RL: 東京都レッドリスト CR: 絶滅危惧ⅠA類 VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧  
外来種は概ね江戸時代末期以降に日本に入ってきたものを表記した。

(植栽): 客土中に入っていて意図的な植栽でないと思われるもの。区内に少ない在来種のみ表記した。

(2) レッドリスト記載種

植栽種を除く国 RL および都 RL (区部) 記載種の確認は無かった。

植栽種であるが、参考までに国 RL および都 RL (区部) 記載種を表Ⅲ-1-2、図Ⅲ-1-1 に示した。

区内に新たにビオトープとして動植物の生息・生育できる環境を創出しているため、外から持ってきたものがRL記載種となっている。今後これらの植物に適した環境を維持していくことによって、鳥類、両生類、昆虫類などの動物が誘致できるため、植栽であってもビオトープの目的に合致している。本調査により植物の由来を記録しておくことで区内に残された本来の自生種と区別した上で区内の環境を評価していくことが重要である。

表Ⅲ-1-2 確認されたレッドリスト記載種一覧 (植物)

科名	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	国RL	都RL (区部)	備考
カバノキ	ハンノキ		●		VU	植栽
タデ	サクラタデ		●		VU	植栽
ドクダミ	ハンゲショウ	●	●		CR	植栽
バラ	エドヒガン		●		非分布	植栽
ミツガシワ	ミツガシワ	●			CR	植栽
イネ	アゼガヤ		●		NT	(植栽)
ミクリ	ミクリ	●		NT	NT	植栽
ラン	シラン	●		NT		植栽
8	8	4	5	2	7	

国RL: 環境省レッドリスト 都RL: 東京都レッドリスト

CR: 絶滅危惧 I A類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

(植栽): 客土中に入っていて意図的な植栽でないと思われるもの。



ハシノキ  
R1 年 7 月 29 日  
池袋本町小学校



サクラタデ  
R1 年 10 月 17 日  
池袋本町小学校



ハンゲショウ  
R1 年 6 月 20 日  
南長崎はらっぱ公園



ミツガシワ  
R1 年 5 月 23 日 南長崎はらっぱ公園



アゼガヤ  
R1 年 10 月 17 日 池袋本町小学校

図Ⅲ-1-1 主なレッドリスト記載種の写真（植物）

### (3) 外来種

外来種は古い時代に日本に入ってきたものは含めず、海外との物流が盛んになった概ね江戸時代末期以降に日本に入ってきたと考えられているものについて集計を行った。前述の基準で集計したところ、102種が確認された（表Ⅲ－1－1）。

そのうち、生態系被害防止外来種リスト記載種は南長崎はらっぱ公園で20種、池袋本町小学校で10種を確認した（表Ⅲ－1－3）。池袋本町小学校の方がビオトープを造ってからの経過年数が少ないためか南長崎はらっぱ公園よりも生態系被害防止外来種リスト記載種が少なかった。

表Ⅲ－1－3 確認された生態系被害防止外来種リスト記載種一覧（植物）

生態系被害防止外来種リストカテゴリ	種名	南長崎はらっぱ公園	池袋本町小学校	備考	
総合対策外来種	緊急対策外来種	オオカワヂシャ	●	特定外来生物	
	重点対策外来種	スイレン属の一種①		●	植栽 園芸スイレン
		スイレン属の一種②	●		植栽 園芸ヒメスイレン
		シンジュ	●		ニワウルシ
		トウネズミモチ	●	●	
		アサガオ	●	●	
		マルバアサガオ	●		
		セイタカアワダチソウ	●	●	
		セイヨウタンポポ	●	●	
		アツバキミガヨラン	●		植栽
		キショウブ	●		植栽
		ノハカタカラクサ	●		
		その他の総合対策外来種	ヒマラヤトキワサンザシ	●	
	フヨウ		●		
	ムラサキカッコウアザミ		●		
	アメリカオニアザミ			●	
	マルバフジバカマ		●		
	ヒメジョオン		●	●	
	ヒメヒオウギズイセン		●		
	メリケンカルカヤ			●	
	シマスズメノヒエ	●			
	その他の総合対策外来種 国内由来	シュロ		●	植栽
	産業管理外来種	ビワ	●		植栽
		ハリエンジュ	●		
		ナギナタガヤ		●	
	25	20	10		

以下に各カテゴリで目立つ植物について生育状況を記述した。

#### 1) 総合対策外来種 緊急対策外来種

南長崎はらっぱ公園のビオトープの水辺で特定外来生物のオオカワヂシャが確認された。確認後は増えないように抜き取った。

## 2) 総合対策外来種 重点対策外来種

どちらのビオトープも園芸スイレンが植栽されているが、外に持ち出さないで育成すれば問題ないと考えられる。

シンジュ（ニワウルシ）は南長崎はらっぱ公園に生育しており、春期調査と秋期調査で同じ個体を撮影したところ、高さは2倍くらいになっており、生長の速さが伺える。他にも数個体公園内に点在していた。

セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウは南長崎はらっぱ公園、池袋本町小学校の両方で見られた。セイヨウタンポポは現在では良く見られる種で増えすぎて困るというレベルではない。セイタカアワダチソウは放置すると非常に増えるので、気が付いたら抜き取りを行った方がよい。

トウネズミモチは種子を鳥が運んだと考えられ、南長崎はらっぱ公園ではビオトープといのちの森、池袋本町小学校では東側の外構部の植栽で確認した。

キショウブは南長崎はらっぱ公園の池に造られている島にのみ生育しているため、それ以外のところに広がらないように管理すれば問題はないと考えられる。

ノハカタカラクサは南長崎はらっぱ公園のビオトープに生育しており、分布を広げつつある。

## 3) 総合対策外来種 その他の総合対策外来種

ムラサキカクウアザミは南長崎はらっぱ公園のビオトープの中に群落を作っている。公園内に植えられて増えた可能性があるが現在の花壇には植えられていない。

アメリカオニアザミは春期調査時に池袋本町小学校の池周辺で確認したが、除草されたのか秋期調査では確認されなかった。

マルバフジバカマは平成29～30年度の南長崎はらっぱ公園のビオトープの植物概況調査では記録されていない。概況調査のため、目立つ植物を中心に記録した影響も考えられるが、今回調査ではビオトープの境界のフェンス周辺やいのちの森周辺に点在しており、急速に増加した印象がある。

ヒメヒオウギズイセンは南長崎はらっぱ公園の南西側の目白通り側の入口付近の花壇の縁石周辺に生育していた。開花時期でないと見つけにくいですが、アメリカザリガニ駆除の際の来園時（6月20日）に確認された。

## 4) 総合対策外来種 その他の総合対策外来種 国内由来

校舎東側の外構部に植栽されたシュロのみで、鳥による散布で逸出したものは確認されなかった。

## 5) 産業管理外来種

南長崎はらっぱ公園のいのちの森で開花結実しているビワと公園南西側の目白通り側の入口付近の花壇に逸出しているものが確認された。

ハリエンジュはいのちの森の一角に混じって生えており、かなり大きくなっている。

ナギナタガヤは池袋本町小学校のビオトープの池の周りの草地に生育していた。

ハリエンジュとナギナタガヤは平成24年度以降の植物調査で区内初確認となった。

●緊急対策外来種(特定外来生物)



オオカワヂシャ  
(R1年5月23日 南長崎はらっぱ公園)

●総合対策外来種 重点対策外来種



シンジュ  
(R1年5月23日 南長崎はらっぱ公園)



シンジュ(左と同じ個体)  
(R1年10月21日 南長崎はらっぱ公園)  
高さが倍くらいになっている。



セイトカアワダチソウ  
(R1年6月4日 池袋本町小学校)



セイヨウタンポポ  
(R1年6月4日 池袋本町小学校)

図Ⅲ-1-2 生態系被害防止外来種リスト記載種(植物)(1/2)



トウネズミモチ  
(R1 年 10 月 21 日 南長崎はらっぱ公園)



ノハカタカラクサ  
(R1 年 10 月 21 日 南長崎はらっぱ公園)

●総合対策外来種 その他の総合対策外来種



マルバフジバカマ  
(R1 年 10 月 17 日 南長崎はらっぱ公園)



ヒメヒオウギズイセン  
(R1 年 6 月 20 日 南長崎はらっぱ公園)

●産業管理外来種



ビワ  
(R1 年 10 月 21 日 南長崎はらっぱ公園)



ハリエンジュ  
(R1 年 10 月 21 日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ－１－２ 生態系被害防止外来種リスト記載種（植物）（２／２）

生態系被害防止外来種リスト記載種以外に目立ったものは、カラクサナズナで春期調査時に南長崎はらっぱ公園の草地で所々に群落を作っていた。南長崎はらっぱ公園の草地の植物調査はこれまで行われていないが、平成28年度の「街の生きものがしウォーキングツアー」の下見やイベント実施の際には気付かなかったので、最近急速に広がったものと考えられる。

その他、平成24年度以降の区内の植物調査で記録されていない新たな外来種として、ミナミフランスアオイ、テリミノイヌホオズキが確認された。

また、南長崎はらっぱ公園のビオトープ南東側の草地に外来種のコネズミガヤが多く広がっていた。池袋本町小学校の東南側のグラウンド沿いの緑地にはワルナスビが生育していた。葉や茎にトゲが多く児童が近づきやすい場所にあるため、除草することが望ましい。



カラクサナズナ  
(R1年5月23日 南長崎はらっぱ公園)



ミナミフランスアオイ  
(R1年5月23日 南長崎はらっぱ公園)



テリミノイヌホオズキ  
(R1年10月21日 南長崎はらっぱ公園)



コネズミガヤ  
(R1年10月21日 南長崎はらっぱ公園)



ワルナスビ  
(R1年7月29日 池袋本町小学校)

#### (4) 各調査地の植物確認状況

##### 1) 南長崎はらっぱ公園

###### ①ビオトープ

池が造成され周りに木本が植栽されたビオトープである。池の周囲はヨシが優占し、池の水中にヒメガマ、ヨシ、フトイ、スイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）が生育していた。

池に造られた小島には、ヨシ、キショウブ等が生育していた。

池の北西側の水深の浅い部分にセリ、フトイなどが生育し、池の南東側の水際にミツガシワも少し生育していた。

東京都レッドデータブック記載種はハンゲショウ、ミツガシワ、ミクリの3種であるが、植栽種である。ミツガシワは結実が見られ、ハンゲショウは開花が見られた。写真は図Ⅲ-1-1に示した。

池の上流部の浅瀬に特定外来生物のオオカワヂシャが生育していた（図Ⅲ-1-2）。平成29年からこのビオトープの植物調査を行っているが、今回が初確認であった。種子が土壤中で休眠していたと考えられる。調査後に抜き取って種子が落ちないように廃棄をしたが、今後も広がらないように管理することが望ましい。

昨年度はアメリカザリガニの捕食圧が下がったことからか、マツモ、エビモといった水草が見られたが、今年度は確認することができなかった。まだ、生育を継続するには不安定な状況と考えられる。もう少しアメリカザリガニの数を減らす必要があると考えられる。

ビオトープの陸域にはネムノキ、ムクゲ、ウメ、イロハモミジ、ナナカマド、サルスベリなどの高木、ビヨウヤナギ、ハナゾノツクバネウツギ（アベリア）、ムラサキシキブなどの低木が植栽されていた。また、植栽されたと思われるクヌギの幼木も見られた。フェンスにはつる植物のミツバアケビ、テイカカズラ、ワイヤープランツなどが巻きついて生育していた。草本はチガヤ、オギ、タケニグサなどが生育し、外来種のセイタカアワダチソウなども生育していた。植栽されたオカトラノオ、コバギボウシ、タマスダレなども生育していた。

公園に造成されたビオトープであるため、植栽種が多いことが特徴である。

###### ②花壇

ビオトープに隣接した花壇には花の咲く園芸植物が多く植えられ、チョウ類がよく見られた。春期調査時にはバイカウツギ、シモツケ、ニオイバンマツリなどの開花が見られた。

秋期調査時にはビオラと呼ばれる小型パンジー、ヒャクニチソウ属の一種（ジニア）、クササンタンカ（ペントス）、ヒゴロモソウ（赤花のサルビア）などの開花が見られた。

###### ③いのちの森

クスノキ、タブノキ、シロダモ、シラカシ、ユズリハなど常緑広葉樹を中心とした植樹林である。レッドロビン、トベラ、シモツケ、ハナゾノツクバネウツギ（アベリア）、サツキ、オオムラサキなどの花にチョウやハナアブ類、ハチ類などが吸蜜に訪れる低木類が植栽されている。その他、クチナシ、コクチナシなどの低木も植栽されて

いた。前述したハリエンジュ、トウネズミモチ（図Ⅲ－１－２）が植栽種に混じって生育しており、今後、増えないように伐採することが望ましい。

#### ④草地

オオバコ、シロツメクサが多い草地でコウライシバ、ナズナ、スズメノカタビラも混じていた。春期調査ではタチイヌノフグリ、セイヨウタンポポなども見られた。春期調査時には草地全体にカラクサナズナ（図Ⅲ－１－３）という外来種が広がっていた。この外来種は葉などに悪臭があり、乳牛が食べると牛乳に悪臭が付いて問題になるというものである。本公園の草地の植物調査はこれまで行ってないが、平成 28 年度の「街の生きものさがしウォーキングツアー」の下見やイベント実施の際には気付かなかったのが、最近急速に広がったものと考えられる。

前述したが、カラクサナズナ以外にミナミフランスアオイ、テリミノイヌホオズキという外来種が新規に確認された（図Ⅲ－１－３）。

草地の所々にグランドカバーとして用いられるアオイゴケ属の一種が見られた。その他、ビオトープ南東側の草地に外来種のコネズミガヤが多く広がっていた（図Ⅲ－１－３）。



ヒメガマ（R1 年 10 月 17 日）



フイ（R1 年 5 月 23 日）



スイレン属の一種(ヒメスイレン)  
(R1 年 7 月 29 日)



ムクゲ（R1 年 10 月 17 日）

図Ⅲ－１－４ 確認した主な植物（南長崎はらっぱ公園）（１／２）



チガヤ (R1 年 5 月 23 日)



オギ (R1 年 10 月 17 日)



バイカウツギ (R1 年 5 月 23 日)



ニオイバンマツリ (R1 年 5 月 23 日)



ヒャクニチソウ属の一種(ジニア)  
(R1 年 10 月 17 日)



クササンタンカ(ペンタス)  
(R1 年 10 月 17 日)



ユズリハ(R1 年 10 月 17 日)



トベラ(R1 年 5 月 23 日)

図Ⅲ-1-4 確認した主な植物 (南長崎はらっぱ公園) (2/2)

## 2) 池袋本町小学校

### ①ビオトープ・水田

池を中心にしたビオトープで隣接した水田もある。池の水は循環させてあり、給水口のところが流れになっていた。給水口のところが流れに沿ってセリが生育していた。

池の中にはスイレン属の一種とセリが生育していた。池の周囲にはミソハギ、ハンゲショウなどが生育していた。これらは本来、水に半分浸かった抽水植物として生育するものもあり、トンボ類が羽化する足場にもなるのだが、池の周囲の土砂が降雨で崩れたため、池の水辺に波板が入れられていて、水域と分断されている。池の周囲の草地にはコウライシバが張っており、それに混じって春期調査ではミツバツチグリ等、秋期調査ではキツネノマゴ、ユウガギク、ノコンギク、コブナグサ、アキノエノコログサ、スズメノヒエ等、春期と秋期調査ではゲンノショウコ、キンミズヒキ等が生育していた。通路とフェンスの間の草地に春期調査ではホタルブクロ、春期と秋期調査ではワレモコウが生育していた。池の周囲にヤマトアオダモ、ハンノキ、シダレヤナギが植栽され、グラウンドとの境のフェンスにはムベが植栽されていた。フェンスにはツルレイシ（ゴーヤ）も植栽されていた。

水田にイネが植栽され、畦には春期調査時にニガナ、秋期調査時にカヤツリグサ、コゴメガヤツリ、ユウガギク、ノコンギク、アゼガヤ、スズメノヒエ、アキノタムラソウ、クルマバナ等が生育していた。春期と秋期調査でヒメシダ、ウツボグサ、ゲンノショウコ、ウマノアシガタ等が見られた。水田の水辺に秋期調査時にタマガヤツリ、コナギ、チョウジタデ、アメリカタカサブロウなどが生育していた。

都RL（区部）記載種はビオトープでハンノキ、春期・秋期調査でハンゲショウ、秋期調査でサクラタデ、水田の畦で秋期調査時にアゼガヤが確認された。ハンノキ、ハンゲショウは植栽、アゼガヤは客土中に入っていたもので意図的ではないが植栽と同等の位置づけになる。都RL（区部）記載種の写真は図Ⅲ－1－1に示した。

### ②グラウンド沿いの緑地

敷地の東南側のグラウンドに沿って帯状に緑地があり、平成30（2018）年7月に「学校の森」記念植樹が行われている。ザクロ、ヒメリンゴ、ナツダイダイ（ナツミカン）、コブシ、カリンなどの高木、ユキヤナギ、コムラサキ、ヤマブキなどの低木が植栽されていた。

木本の根元にはコウライシバが張られているところもあった。春期調査時にはゲンノショウコ、キンミズヒキ、秋期調査時にはユウガギク、コミカンソウ、イヌホオズキ、オオニシキソウ等が生育していた。

### ③外構部の植栽地

学校の北側の正門前の通路沿いにはソメイヨシノを中心とした高木植栽とサツキなどの低木植栽がされていた。西側にはレッドロビンの生垣、南側にはサネカズラ、グラウンド沿いの東南側のフェンスにはテイカカズラなどが植栽されていた。校舎東側には平成21年（2009）年4月に「学校の森」記念植樹が行われ、ユズリハ、スダジイ、カクレミノ、ヤブニッケイ、シキミ、ヤマモモ、キンモクセイなどの常緑広葉樹が中心に植栽され、ヤマボウシ、イロハモミジなどの落葉広葉樹も混植されていた。木本の根元にはフッキソウが植栽され、その他ブラジルコミカンソウなどが生育していた。



スイレン属の一種 (R1 年 9 月 25 日)



スズメノヒエ (R1 年 10 月 17 日)



ゲンノショウコ (R1 年 9 月 25 日)



ホタルブクロ (R1 年 6 月 4 日)



ニガナ (R1 年 6 月 4 日)



アキノタムラソウ (R1 年 7 月 29 日)



クormaバナ (R1 年 10 月 17 日)



ヒメシダ (R1 年 6 月 4 日)

図Ⅲ-1-5 確認した主な植物 (池袋本町小学校) (1 / 2)



ウツボグサ (R1年6月4日)



ウマノアシガタ (R1年6月4日)



タマガヤツリ (R1年10月17日)



コナギ (R1年10月17日)



チョウジタデ (R1年9月25日)



アメリカタカサブロウ (R1年9月25日)



ザクロ (R1年6月4日)



キンモクセイ (R1年10月17日)

図Ⅲ-1-5 確認した主な植物 (池袋本町小学校) (2/2)

## (5) 植物調査のまとめ

### 1) 南長崎はらっぱ公園

ビオトープは、池の水中にはスイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）、ヒメガマ、ヨシ、フトイなどが生育し、池の周囲はヨシが優占していた。池の上流部の浅瀬に特定外来生物のオオカワヂシャが生育していた。

昨年度、水中にマツモ、エビモが生育していたが、今年度は確認されなかった。アメリカザリガニがまだ水中にいるため、食害されて消失した可能性がある。これらが安定的に生育するにはアメリカザリガニの個体数をもう少し減らす必要があると考えられる。

いのちの森にはクスノキ、タブノキ、シロダモ、シラカシ等の常緑広葉樹を中心とした植栽がされ、レッドロビン、トベラ、ハナゾノツクバネウツギ（アベリア）等、開花し昆虫が吸蜜に訪れる植物も植栽されていた。

公園の中央に広がる広大な草地はオオバコ、シロツメクサが多く、コウライシバ、ナズナ、スズメノカタビラなども混じっていた。外来種も多く、平成24年度以降の調査で初確認となるハリエンジュ、カラクサナズナ、ミナミフランスアオイ、テリミノイヌホオズキが確認された。

### 2) 池袋本町小学校

ビオトープの池の水中にスイレン属の一種（園芸スイレン）とセリが生育し、池の周囲にはミソハギ、ハンゲショウなどが生育していた。ミソハギ、ハンゲショウは本来であれば植物体が半分に浸かる抽水植物として生育するものもあるはずであるが、降雨時に池の周囲の土砂が崩れたことにより水辺には波板が設置され、水域から分断されている。池の周囲の草地にはコウライシバが張っており、それに混じってミツバツチグリ、ユウガギク、ノコンギク、スズメノヒエ、ゲンノショウコ、キンミズヒキ等が生育していた。

水田にはイネが植栽され、水中や水辺にはタマガヤツリ、コナギ、チョウジタデ、アメリカタカサブロウが生育していた。水田の畦には都RL（区部）記載種のアゼガヤ、ニガナ、ウマノアシガタ、スズメノヒエ、アキノタムラソウ、クルマバナ、ウツボグサ等が生育していた。

キンミズヒキ、ウツボグサ、ホタルブクロ、ウマノアシガタ、クルマバナ、アキノタムラソウ等は平成24年度以降の区内の植物調査で見つかっておらず、ミツバツチグリ、ニガナ、ゲンノショウコ、スズメノヒエ、ワレモコウ等は区内では少ない。これらは在来の様々な草本植物がセットになった野草マットによる施工により持ち込まれたものと思われる。

水田の畦で確認した都RL（区部）記載種のアゼガヤは意図的な植栽ではないと思われる。客土中に入っていたと考えられる。

グラウンド沿いの緑地にはザクロ、ヒメリンゴ、カリンなどの高木、ユキヤナギ、コムラサキ、ヤマブキなどの低木が植栽されていた。ここでも野草マットによる施工が行われたと考えられ、ゲンノショウコ、キンミズヒキ、ユウガギク、コミカンソウなどが生育していた。外来種のひとつとしてワルナスビが生育しており、葉や茎にト

ゲがあり、児童が近づきやすい場所であることから、除草することが望ましい。

学校の外構部にはソメイヨシノ、サツキ、レッドロビン、サネカズラ、テイカカズラ等が植栽されていた。校舎の東側の一角には「学校の森」記念植樹が行われ、ユズリハ、スタジイ、カクレミノ、ヤブニッケイ、シキミ、ヤマモモ、キンモクセイなどの常緑広葉樹が中心に植栽されていた。

## 2. 昆虫類調査

### (1) 調査結果概要

昆虫類は、7目47科88種が確認された（不明・未同定種は除く）（表Ⅲ-2-1）。調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園で70種、池袋本町小学校48種であった。

平成24～27年度までの小規模な緑地の昆虫類調査の確認種と比較すると、目白の森が80種、グリーン大通りが16種、池袋の森が94種であった。調査地の環境や調査年などが異なるため、単純に種数のみの比較はできないが、市街地内の小規模な緑地である小学校や南長崎はらっぱ公園においても、昆虫類はある程度生息していたと言える。

### (2) レッドリスト記載種

国RL記載種および都RL記載種の確認はなかった。

### (3) 外来種

外来種は、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、キマダラカメムシ、アメリカシロヒトリ、アメリカミズアブの4種が確認された。

特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト記載種の確認はなかった。



アメリカミズアブ

(R1年9月25日 南長崎はらっぱ公園)



アメリカシロヒトリ幼虫

(R1年9月25日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-1 確認された主な外来種(昆虫類)

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(1/2)

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園		池袋本町 小学校		備考
				夏	秋	夏	秋	
トンボ	イトトンボ	1	アジアイトトンボ				●	
	トンボ	2	アキアカネ		●		●	
		3	コシアキトンボ	●				
		4	ウスバキトンボ	●				
		5	シオカラトンボ	●		●		
		6	オオシオカラトンボ	●		●		
バッタ	キリギリス	7	クビキリギリス		●			幼虫
	コオロギ	8	エンマコオロギ			●	●	
		9	モリオカメコオロギ		●			
		10	ハラオカメコオロギ		●		●	
		11	ツツレサセコオロギ		●		●	
		12	マダラスズ		●		●	
	ヒバリモドキ	13	シバズ		●		●	
		14	カネタタキ		●			
	ヒシバッタ	15	ハラヒシバッタ				●	
	オンブバッタ	16	オンブバッタ	●		●	●	
	バッタ	17	ハネナガイナゴ				●	
		18	コバネイナゴ	●	●	●		
		19	イボバッタ		●			
カメムシ	テングスケバ	20	テングスケバ				●	
	ゲンバイウンカ	21	ミドリゲンバイウンカ	●				
	セミ	22	アブラゼミ	●	●			
		23	ツクツクボウシ		●			
		24	ニイニイゼミ	●				
	ヨコバイ	25	ツマグロオオヨコバイ		●		●	
	アブラムシ	26	キョウチクトウアブラムシ				●	
		27	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	●				外来種
	ゲンバユスデ	28	ナシゲンバユスデ		●			
	マキバサシガメ	29	マキバサシガメの一種		●			Nabis sp.
	ホソヘリカメムシ	30	クモヘリカメムシ		●			幼虫
	イトカメムシ	31	イトカメムシ		●			
	ナガカメムシ	32	ヒゲナガカメムシ		●			
		33	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ		●			
	カメムシ	34	キマダラカメムシ		●	●	●	外来種
		35	クサギカメムシ			●		
アメンボ	36	ヒメアメンボ			●			
チョウ	セセリチョウ	37	イチモンジセセリ		●		●	
		38	チャバネセセリ		●		●	
	アゲハチョウ	39	ナミアゲハ	●	●	●		
		40	アオスジアゲハ	●	●		●	
	シロチョウ	41	キタキチョウ		●		●	
		42	モンシロチョウ	●	●	●	●	
	シジミチョウ	43	ウラナミシジミ		●		●	
		44	ヤマトシジミ	●	●	●	●	
	タテハチョウ	45	ツマグロヒョウモン	●	●		●	
		46	コムスジ		●			
		47	ヒメアカタテハ		●		●	
		48	ヒメジャノメ		●			
		49	マメノメイガ				●	
	ツトガ	50	シバツトガ	●	●			
		51	シロオビノメイガ		●		●	
		52	オオスカシバ		●		●	幼虫も
	スズメガ	53	ホシホウジャク		●			
		54	セスジスズメ				●	幼虫
		55	アメリカシロヒトリ		●			幼虫 外来種
ドクガ	56	チャドクガ		●			幼虫	
ハエ	ミズアブ	57	アメリカミズアブ		●			外来種
	ムシヒキアブ	58	シオヤアブ	●				
	アシナガバエ	59	アシナガキンバエ類の一種	●				
	ハナアブ	60	ホソヒラタアブ		●		●	
	ミバエ	61	ミスジミバエ		●			
	ハナバエ	62	クロオビハナバエ			●		
	クロバエ	63	ツマグロキンバエ		●			
		64	キンバエ類の一種	●		●		
	ニクバエ	65	ニクバエ科の一種	●		●		

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧（2/2）

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園		池袋本町 小学校		備考
				夏	秋	夏	秋	
コウチュウ	コガネムシ	66	セマダラコガネ			●		
		67	ピロウドコガネの一種	●				
		68	マメコガネ	●				
	テントウムシ	69	ナナホシテントウ		●			
		70	ナミテントウ		●			
		71	キイロテントウ				●	
		72	ダンダラテントウ				●	
		73	ヨツボシテントウ	●				
	ハムシ	74	クロウリハムシ		●		●	
		75	ルリマルノミハムシ	●	●			
76		サンゴジュハムシ	●					
77		ドウガネサルハムシ	●					
ハチ	アリ	78	トビロシワアリ			●		
		79	クロヤマアリ	●	●	●	●	
		80	トビロケアリ	●		●	●	
		81	アメイロアリ	●				
	ドロバチ	82	オオカバドロバチ	●				
	スズメバチ	83	セグロアシナガバチ			●		
		84	コアシナガバチ	●	●			
		85	コガタスズメバチ		●			
	-	スズメバチの一種				●		
	ツチバチ	86	ヒメハナガツチバチ				●	
	ミツバチ	87	キムネクマバチ		●			
	(不明)	88	小型ハナバチ類の一種			●		
	7	47	-	88	31	50	20	35
				70		48		

(4) 各調査地の昆虫類確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ池周辺

池の中心にはヒメスイレンがある。浅い部分や周辺にはヒメガマやヨシがあり、定期的に手入れされている。池周辺にはハナゾノツクバネウツギ（アベリア）等の低木が植栽されている。

夏期調査では、池でシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボといったトンボ3種が確認できたが、秋期の調査では、アキアカネ1種を確認したのみであった。池周辺の藪にはヒメジャノメ、池周辺のハナゾノツクバネウツギ（アベリア）には、オオスカシバやホシホウジャクが訪花していたほか、周辺の花壇ではヒメアカタテハやイチモンジセセリ、ウラナミシジミなど多くのチョウ類が訪花していた。

②いのちの森

照葉樹を中心とした植樹林である。

夏期調査では、ニイニイゼミやアブラゼミが確認でき、秋期調査ではツクツクボウシを確認した。林縁に植栽されたハナゾノツクバネウツギ（アベリア）には、ホシホウジャクが訪花していた。

③草地

公園の大部分を占める低茎の草本地である。

バッタ類はイボバッタ程度で少なく、クモヘリカメムシやヒゲナガカメムシ、マキバサシガメ類の一種など草地性のカメムシ類を多く確認した。

## 2) 池袋本町小学校

### ①ビオトープ・水田

人工池を中心にしたビオトープである。隣接して小規模な水田も併設されている。

夏期調査では池にシオカラトンボ、オオシオカラトンボが、秋期調査ではアキアカネとアジアイトトンボが飛来していた。池は抽水植物などが少なく、調査時にはトンボ類の羽化殻は確認できなかった。一方、水田の水たまりでは水生生物調査結果で報告するが、シオカラトンボ属の一種の幼虫とシオカラトンボの羽化殻が確認された。しかし、秋期調査時には水が抜かれていたため、トンボ類の幼虫が生息できない環境になっていた。

ビオトープや水田まわりの草地では、コオロギ類やシバズなどを確認した。また、水田周辺ではコバネイナゴとハネナガイナゴが見つかった。このうちハネナガイナゴは、都心部ではほとんど見られないことから、苗に卵や幼虫がついてきた可能性が考えられる。

### ②グラウンド沿いの緑地

学校敷地の東南側グラウンド沿いに緑地がある。所々木製デッキが置かれ、その脇に草本が繁茂している。花蜜植物は少ない。

低く繁茂する草本類のなかで、オンブバッタやヤマトシジミなどが確認できた。また、ネット沿いでテングスケバを確認したが、本種はイネ科の草地に飛来することから、水田があることで周囲に飛来したと考えられる。

### ③外構部の植栽地

学校外構部の道路沿いのサクラ類の樹名板の裏にはキマダラカメムシが10個体ほど見つかった。本種は外来種であるが、当地にすでに定着していると考えられる。

## (5) 昆虫類調査のまとめ

### 1) 今回調査のまとめ

今回調査した2地点の昆虫類についてまとめる。

今回の調査地はいずれも水辺ビオトープが設置されているが、トンボ類は、池袋本町小学校では4種、南長崎はらっぱ公園でも5種と種数・個体数とも多くなかった。

バッタ類は、池袋本町小学校ではコオロギ類のほか、オンブバッタやハラヒシバッタがビオトープ池の周辺で見られたほか、水田ではコバネイナゴやハネナガイナゴを確認した。前述の通り、ハネナガイナゴは都心ではほとんどいなくなっているため、イネの苗等に卵や幼虫がついてきた可能性がある。

チョウ類では、いずれの調査地でも確認種数は多かったが、池袋本町小学校には、訪花植物が少なく、チョウ類は一時的に飛来する程度であった。一方、南長崎はらっぱ公園にはハナヅノツクバネウツギ（アベリア）や花壇に植えられた各種の花が多く、チョウ類を飛来させていたと考えられる。

### 2) 既存調査データとの比較と考察

南長崎原っぱ公園では平成28年度にも昆虫調査が実施されており65種を記録している。平成28年度報告書を用いて比較を行う。

平成28年にはビオトープ池でシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、クロスジギン

ヤンマを確認しているが、本年ではクロスジギンヤンマを確認できなかった。この理由としては、環境の変化である可能性もあるが、本種の発生時期がギンヤンマよりやや早く、7月下旬は成虫の見られる末期にあたるためとも考えられる。

訪花性昆虫では、平成28年のみでコマルハナバチやニッポンヒゲナガハナバチが確認されていた。この理由としても、クロスジギンヤンマと同様に成虫の出現時期が春期であるためと考えられる。

いわゆる「鳴く虫」では、オカメコオロギ2種を前回調査から引き続き確認した。また、今回の調査ではミツカドコオロギを確認したが、一方で前回調査では生息していたツツレサセコオロギは確認できなかった。これらの種のうち、特にミツカドコオロギは市街地内ではやや少ないことから、一時的に飛来した可能性が考えられる。

その他、コムスジやオオスカシバは前回調査同様に確認し、オオスカシバについては幼虫も確認したことから、当地に定着していると考えられる。



コシアキトンボ  
(R1年7月29日 南長崎はらっぱ公園)



オオシオカラトンボ  
(R1年7月29日 池袋本町小学校)



クビキリギス幼虫  
(R1年9月25日 南長崎はらっぱ公園)



オンブバッタ(幼虫)  
(R1年7月29日 池袋本町小学校)



ハネナガイナゴ  
(R1年9月25日 池袋本町小学校)



コバネイナゴ(幼虫)  
(R1年7月29日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-2 確認された主な昆虫類(トンボ類、バッタ類)



ウラナシジミ  
(R1 年 9 月 25 日 池袋本町小学校)



ヤマトシジミ  
(R1 年 7 月 29 日 池袋本町小学校)



コムスジ  
(R1 年 9 月 25 日 南長崎はらっぱ公園)



オオスカシバ幼虫  
(R1 年 9 月 25 日 南長崎はらっぱ公園)



テングスケバ  
(R1 年 9 月 25 日 池袋本町小学校)



キマダラカメムシ  
(R1 年 9 月 25 日 池袋本町小学校)



シオヤアブ  
(R1 年 7 月 29 日 南長崎はらっぱ公園)



コアシナガバチ  
(R1 年 9 月 25 日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-3 確認された主な昆虫類 (チョウ類、その他)

### 3. その他小動物調査

#### 3-1 哺乳類

今回の調査では、哺乳類の確認はなかった。

確認する機会を増やすには、調査方法の検討が必要で、夜行性のアブラコウモリは夜に調査を行う必要がある。また、主に夜間に行動する種を対象とした自動撮影カメラを設置して撮影する方法がある。さらに、シャーマントラップを用いることで、ネズミ類が確認できる可能性がある。シャーマントラップとは、調査用の捕獲罠である。

#### 3-2 爬虫類

今回の調査では、爬虫類の確認はなかった。

#### 3-3 両生類

##### (1) 調査結果概要

1目1科1種を確認した(表Ⅲ-3-1)。南長崎はらっぱ公園と池袋本町小学校の両調査地ともに確認した。なお、南長崎はらっぱ公園の池では成体の他に卵塊も確認した。

表Ⅲ-3-1 両生類確認種一覧

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ公園	池袋本町 小学校	備考
カエル	ヒキガエル	1	アズマヒキガエル	●	●	都RL(区部):NT
1	1		1	1	1	

##### (2) レッドリスト記載種および外来種

###### 1) レッドリスト記載種

国 RL 記載種の確認はなかった。

都 RL (区部) 記載種は、以下の1種が確認された。

(準絶滅危惧) アズマヒキガエル (南長崎はらっぱ公園、池袋本町小学校)

植物の春期調査時(令和元年6月4日)に池袋本町小学校ビオトープで幼生(オタマジャクシ)が確認された。冬期調査時に池袋本町小学校では成体2個体、南長崎はらっぱ公園では、成体5個体と卵塊(5腹分程度)が確認された。



アズマヒキガエル成体  
(R2年2月21日・南長崎はらっぱ公園)



アズマヒキガエル卵塊  
(R2年2月21日・南長崎はらっぱ公園)



アズマヒキガエル幼生  
(R1年6月4日・池袋本町小学校)



アズマヒキガエル成体  
(R2年2月21日・池袋本町小学校)

### 図Ⅲ-3-1 確認された両生類

#### 2) 外来種

外来種の確認はなかった。

#### (3) 両生類調査のまとめ

池袋本町小学校および長崎はらっぱ公園ともに、アズマヒキガエルを確認することができた。

本種は夜行性であるため、日中の調査では確認確率が低いですが、池のある調査地であるために産卵期に調査日を設定したことで生息や産卵を確認することができた。

ビオトープ池の創出によって、繁殖の場を提供したことは非常に意義のあることである。

ただし、本種が生息するためには、日中に身を隠すことができ、夜間に小動物を採食することのできる樹林や藪などが必要である。どちらの調査地の周辺にもそのような環境は非常に少なく、生息は安定しているとはいいがたい。

#### 4. 水生生物調査

##### (1) 調査結果概要

水生生物調査では、6綱10目15科21種を確認した（不明・未同定種は除く）（表Ⅲ-4-1）。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園14種、池袋本町小学校12種であった。

##### (2) レッドリスト記載種

移入種を除く国RL記載種の確認は無かった。

移入種を除く都RL記載種は以下の一種であった。

（準絶滅危惧） アズマヒキガエル （南長崎はらっぱ公園、池袋本町小学校）

移入種であるが、参考までにレッドリスト記載種を示す。

国RL記載種は以下の一種が確認された。

（絶滅危惧Ⅱ類） ミナミメダカ？（南長崎はらっぱ公園、池袋本町小学校）

都レッドリスト記載種は以下の一種を確認した。

（絶滅危惧Ⅰ類） ミナミメダカ？（南長崎はらっぱ公園、池袋本町小学校）

（留意種） ヌカエビ （南長崎はらっぱ公園）

メダカ属の一種は移入された個体で由来がはっきりせず、種までの同定には至らなかったが、在来のメダカは国、都両方のレッドリスト記載種である。

表Ⅲ－４－１ 水生生物確認種一覧

門名	綱名	目名	科名	No.	種名	南長崎はらっぱ公園		池袋本町小学校		備考		
						9月	2月	9月	2月			
軟体動物	腹足	新生腹足	タニシ	1	ヒメタニシ			●	●			
		汎有肺	モノアラガイ	2	モノアラガイ科の一種			●	●			
環形動物	ミミズ	イトミミズ	ミズミミズ	3	ミズミミズ科の一種			●	●	イトミミズ科とする場合もある		
節足動物	軟甲	ヨコエビ	マミズヨコエビ	4	フロリダマミズヨコエビ				●	外来種		
		エビ	ヌマエビ		5	カワリヌマエビ属の一種	●	●			造成当初の放流	
				ヌカエビ		6		●	●			来園者による放流? 都RL(区部):留意種
				アメリカザリガニ		7	アメリカザリガニ	●	●			来園者による放流
		昆虫	トンボ	イトトンボ		8	イトトンボ科の一種				●	
				ヤンマ		9	クロスジギンヤンマ			●	●	
				トンボ		10	シオカラトンボ	●	●	●	●	
					11	コシアキトンボ	●					
	ハエ	ユスリカ		12	ユスリカ科の一種		●				赤色型	
		ブユ		13	ブユ科の一種				●			
	脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ		14	コイ	●				来園者による放流
				キンギョ		15			●			来園者による放流
				タイリクバラタナゴ		16		●	●			来園者による放流
				モツゴ		17		●	●			造成当初の放流
				ドジョウ		18	ドジョウ	●		●	●	造成当初の放流
ダツ		メダカ		19	メダカ属の一種	●	●	●	●		造成当初の放流 国RL:VU、都RL(区部):CR+EN ミナミメダカ?	
				20	ヒメダカ	●		●	●		飼育品種	
				21	アズマヒキガエル		●		●		都RL(区部):NT	
両生	カエル	ヒキガエル		21	アズマヒキガエル		●		●	都RL(区部):NT		
4	6	10	15		21	11	10	8	12			
						14		12				

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧

※無脊椎動物の綱名、目名については、河川水辺の国勢調査 令和元年度生物リストを参照した。

### (3) 外来種

外来種は、魚類（硬骨魚綱）のタイリクバラタナゴ、軟甲綱のフロリダマミズヨコエビが確認された。

どちらも生態系被害防止外来種リスト記載種である。

(総合対策外来種 重点対策外来種)

タイリクバラタナゴ (南長崎はらっぱ公園)

(総合対策外来種 その他の総合対策外来種)

フロリダマミズヨコエビ (池袋本町小学校)



タイリクバラタナゴ  
(R2年2月21日 南長崎はらっぱ公園)



フロリダマミズヨコエビ  
(R2年2月21日 池袋本町小学校)

#### 図Ⅲ-4-1 確認された外来種(水生生物類)

タイリクバラタナゴはドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、ドブガイのいない南長崎はらっぱ公園の池で繁殖することはない。そのため、特に駆除は必要ないと考えられるが、来園者により放流されたものであるため、ポスター等で抑止を呼び掛けるなど対策が必要である。

フロリダマミズヨコエビは在来のヨコエビと競合するといわれているが、人工池で在来のヨコエビは確認されていないため、駆除等は必要ないと考えられる。

#### (4) 各調査地の水生生物確認状況

##### 1) 南長崎はらっぱ公園

4綱6目8科14種が確認された(表Ⅲ-4-1)。ビオトープ池造成当時に放流された魚類はモツゴ、ドジョウ、メダカ属の一種である。メダカ属の一種はミナミメダカの可能性があるが、目視では判別できないため、属までの同定とした。ミナミメダカは東京都レッドリスト記載種であるが移入種のため、希少性の評価の対象ではない。

コイ、キンギョ、タイリクバラタナゴについては来園者による放流と考えられる。タイリクバラタナゴは生態系被害防止外来種リスト記載種である。タイリクバラタナゴはドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、これらがいなければ繁殖はできないが、コイが複数放流され繁殖した場合、トンボ類の幼虫(ヤゴ)などを含む底生生物を捕食し、生物多様性を低下させてしまうおそれがあり、注意が必要である。ヒメダカは造成当時の放流か来園者の放流かは不明である。

カワリヌマエビ属の一種も造成当時に放流されたと思われる。西日本産のミナミヌマエビと輸入された近縁のシナヌマエビ類のいずれかと思われるが、判別が難しいため属までの同定とした。また今回は、ヌカエビが確認された。ヌカエビは近畿以北～東北地方まで分布する日本固有種である。これは昨年度までの調査では見られなかった種であり、飼育個体が来園者により放流されたものと思われる。東京都 RL 記載種で留意種であるが移入種のため、評価の対象ではない。

アメリカザリガニはビオトープ池造成時に放流はされておらず、来園者が放流したものと考えられる。アメリカザリガニが増加すると水草やアズマヒキガエルの幼生(オタマジャクシ)、トンボ類の幼虫(ヤゴ)などを食べてしまうため、池の生物多様性が低下してしまう。実際に植栽されていたアサザが食害により消失してしまったため、平成29年度から駆除を行っている。

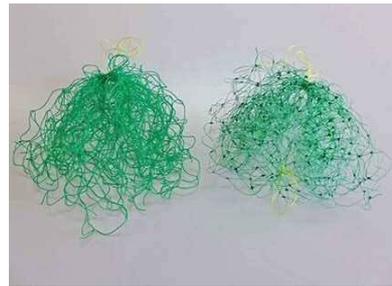
水生昆虫としては昨年度と同様、シオカラトンボ属の一種とコシアキトンボの幼虫(ヤゴ)を確認した。シオカラトンボ属の一種は昨年度よりも個体数が多かった。タモ網による捕獲のほか、人工藻の中でも確認された。人工藻は潜り込んだ小さなザリガニを駆除する目的とアメリカザリガニの食害により、水草が植えられない状況の中で水草の代わりにヤゴ等の隠れ場となるように水中に吊るしているものである(図Ⅲ-4-2)。人工藻は秋期調査では麻紐製の方でのみヤゴを確認しているが、冬期調査ではプラスチック製の人工藻でシオカラトンボ属の一種が確認できた。冬期調査の時点で麻紐製の人工藻が紛失していたため、材質による比較はできなかったが、引き続き効果について比較を行っていききたい。その他、冬期調査でユスリカ科の一種の幼虫を確認した。

トンボ類の幼虫(ヤゴ)はアメリカザリガニに捕食されていると思われるが、継続的なアメリカザリガニ駆除作業によって、トンボ類の幼虫への捕食圧が下がったものと思われる。アメリカザリガニの駆除作業の効果が徐々に出てきたものと思われる。

両生類はアズマヒキガエルが確認された。両生類については前述の「3. その他小動物 3-3 両生類」に示した。



麻紐で作成した人工藻



プラスチック製人工藻  
左：ロープ状 右：糸状



設置状況（麻紐製）



設置状況（プラスチック製）

図Ⅲ－４－２ 人工藻

## 2) 池袋本町小学校

池袋本町小学校のビオトープ池と水田では6綱9目11科12種が確認された。ビオトープ池では魚類はドジョウ、メダカ属の一種、ヒメダカが見られた。これらは造成時に放流されたものである。貝類ではヒメタニシとモノアラガイ科の一種が確認できた。ヒメタニシについては放流の可能性はあるが、モノアラガイ科の一種については、水生植物の移植時に持ち込まれたものと思われる。

水生昆虫としては、イトトンボ科の一種、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ属の一種の幼虫（ヤゴ）、ブユ科の一種の幼虫が確認された。これらは、水辺ビオトープ環境を造成したことによって誘致できた生物である。イトトンボ科の一種、クロスジギンヤンマの幼虫は南長崎はらっぱ公園の池では確認されていない。アメリカザリガニがないため、これらが生息できていると考えられる。

秋期調査時には水田の地面が低くなっている部分に水たまりができており、そこでシオカラトンボ属の一種の幼虫を確認した。また、シオカラトンボの羽化殻の確認により、羽化していることが確認された。しかし、水田は稲刈り後に水を抜いてしまうため、水田の地面が低くなった水たまりでかろうじて生き残っている状況であった。冬期調査時には稲刈り後で水はなくなっており、シオカラトンボ属の一種は生息できない状態になっていた。

ブユ科の一種については、水循環の吐水口付近の細流にあった石に付着していたものである。ブユ科の多くは、自然下においては酸素供給量の多い流水中でみられる。吐水口付近の流水が生息に適していたものと思われる。池に接続する小さな流れが、環境に微妙な変化を加え、生息する生物の多様性を増していると考えられる。

その他、ミズミミズ（イトミミズ）科の一種が秋期、冬期調査ともに確認された。

これは造成時に張った底泥に入っていたか、植栽された水生植物の泥に付着していたものが存続しているものと思われる。

両生類はアズマヒキガエルが確認された。両生類については前述の「**3. その他小動物 3-3 両生類**」に示した。

外来種はフロリダマミズヨコエビが確認された。本種は生態系被害防止外来種リスト記載種である。北米南東部原産で、在来のヨコエビ類にくらべて水質の悪い水辺でも生息でき、日本各地で分布を拡げつつある種である。これらの流入経路は不明だが、いずれも初期に植栽された水生植物に付着してきた可能性がある。

## (5) 水生生物類調査のまとめ

### 1) 南長崎はらっぱ公園

秋期・冬期調査ともにシオカラトンボ属の一種が確認された。とくに冬期調査ではアメリカザリガニの大型個体が見られず、シオカラトンボ属の一種が昨年度と比較して多かった。落ち葉等の分解した底泥にヤゴの食物となるユスリカ科の幼虫が発生していること、地元ボランティアの駆除活動によってアメリカザリガニが減っていることなどにより、トンボ類幼虫が生息しやすくなっているようである。

アズマヒキガエルの産卵が毎年確認され、水辺が少ない区内では貴重な生息地となっていると考えられる。しかし、幼生（オタマジャクシ）は見られても上陸した若い成体は確認されておらず、幼生の段階である程度アメリカザリガニに捕食されている可能性がある。

このほか、放流された淡水産ヌマエビ類であるが、カワリヌマエビ属の一種はすでに定着している。今年度秋期調査時には同じく淡水産ヌマエビ類である、ヌカエビを 2 匹確認した。冬期の調査時にはヌカエビの確認数が増えていた。自然水域の下流域では、在来種であるヌカエビのいる環境にカワリヌマエビ属が入り込むと、数年で種が入れ替わってしまう例が時々見られる。この 2 種の動静が今後どのようになるのかも注目したい。

### 2) 池袋本町小学校ビオトープ

ビオトープ池にはイトトンボ科やクロスジギンヤンマ、シオカラトンボなど、水辺ビオトープで期待できる種が確認できた。これらの生物を誘致するための環境として有効であったといえる。底泥中に生息するミズミミズ（イトミミズ）科の一種の存在は、これらトンボ類幼虫の食物として重要である。

また、トンボ類の幼虫の捕食者であるアメリカザリガニがいないことにより、南長崎はらっぱ公園よりも多くの種類のトンボ類が確認されている。

また、池を造成したことでアズマヒキガエルが来るようになった。冬期調査時に産卵を確認することはできなかったが、令和元年 6 月 4 日の植物調査時に幼生（オタマジャクシ）を確認しており、昨年度は産卵をしていたことが確認されている。

池と水田を造成することにより、トンボ類とアズマヒキガエルを誘致できていることはビオトープ設置の目的である生きものの生息・生育地としての機能を示す事例と考えられるが、これらが成虫または成体になることができ、さらに次世代を育み続けられるような維持管理が望まれる。



ヌカエビ(左側はカワリヌマエビ属の一種)  
(R2年2月21日)



コシアキトンボ  
(R1年9月25日)



ユスリカ科の一種  
(R2年2月21日)



コイ  
(R1年9月25日)



ドジョウ  
(R1年9月25日)



メダカ属の一種  
(R2年2月21日)

図Ⅲ-4-3 確認した主な水生生物 (南長崎はらっぱ公園ビオトープ)



ミズミズ科の一種  
(R2年2月21日)



ヒメタニシ  
(R1年9月25日)



イトトンボ科の一種  
(R2年2月21日)



クロスジギンヤンマ  
(R1年9月25日)



シオカラトンボ属の一種  
(R2年2月21日)



ブユ科の一種  
(R2年2月21日)

図Ⅲ-4-4 確認した主な水生生物 (池袋本町小学校ビオトープ)

## 5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案

### (1) 南長崎はらっぱ公園

#### 1) ビオトープ

南長崎はらっぱ公園ビオトープについては、アメリカザリガニの駆除作業を継続しつつ、池畔の植物が繁茂する時期に適度な除草を行って開水面を確保することによって、トンボ類の飛来しやすい水辺ビオトープが維持できると考えられる。人工藻の設置もアメリカザリガニの捕食圧が低下して水草が植えられるようになるまでの水草の代替としてトンボ類幼虫の生息場所として有効である。また、都市公園に隣接した場所なので周辺住民にとって身近な緑地であり、さまざまな人が訪れる。その際コイやタイリクバラタナゴ、キンギョの例のように、外来種などの生物が持ち込まれることがこれからも有りうる。コイはトンボ類の幼虫も含む底生生物類を吸い込み捕食してしまう。大きく生長してしまうとその影響も大きくなる。アメリカザリガニ駆除と並行して、これらについても定期的に駆除作業を実施することが適切と思われる。今後は水生生物調査やアメリカザリガニ駆除作業時にコイが捕獲された場合は駆除を行うことが望ましい。

南長崎はらっぱ公園の池の底質は粘土質であるが、イトミミズ類やユスリカ幼虫の食物となる落ち葉等の有機質がやや増えてきていた。これは岸辺の樹木の落ち葉や、ヨシ、ヒメガマ類等の枯れ葉などが堆積したものである。これらは底生生物の食物となるだけではなく、身を隠す場所としても利用できるため、ある程度の供給が必要である。イトミミズ類やユスリカの幼虫などの底生生物はヤゴの食物となる。ただし、泥土が堆積しすぎるとヘドロ状を呈し生物相が単調になりがちなので、定期的に底泥を除去する必要があると考えられる。

その他の植生管理等に関しては「平成30年度 豊島区の生きもの情報共有事業支援業務報告書」の巻末の「南長崎はらっぱ公園ビオトープ管理マニュアル」をご参照いただきたい。

#### 2) いのちの森

いのちの森に植栽された樹木に混じって、生態系被害防止外来種リスト記載種のトウネズミモチ、ハリエンジュが生育していることが確認された。これらが生長して開花結実すると鳥類により種子が散布されてしまうため、伐採を行うことが望ましい。特にハリエンジュは根茎が地中に広がって増えていくため、注意が必要である。

マルバフジバカマはいのちの森周辺とビオトープに点在しているが、花が咲くと分かりやすいため、花の時期に抜き取ることを望ましい。

#### 3) 草地

草地には様々な外来種が分布し、平成24年度以降の調査で区内初確認となった種もある。今回の調査でシンジュ（ニワウルシ）の生長の速さを改めて確認したが、開花結実する前に伐採を行うことが望ましい。

## (2) 池袋本町小学校

### 1) ビオトープ

池袋本町小学校のビオトープ池は比較的新しく造られた場所である。イトトンボ科の一種やクロスジギンヤンマ、シオカラトンボなどの水辺ビオトープを利用する種が飛来しており、幼虫も確認された。ミズミミズ（イトミミズ）科の一種がいるなど、ある程度環境が整いつつあるものと思われる。

多様な生きものが生育することができるように、アメリカザリガニやコイは絶対に放流しないようにすることが必要である。南長崎はらっぱ公園の事例のように一度増えてしまうと駆除に大変な労力と時間を費やさなければならなくなるため、ポスターなどでの周知も必要である。

造成当時はハンゲショウ、ミソハギなどの抽水植物が水際に植栽されていたが、雨天時に池の周囲の土壌が流され、池に流入してしまうため、土留めのために池の水際に波状の板が差し込まれ、水域と陸域が分断された状態になっている。このことにより、池周辺にトンボ類の幼虫が羽化するための足場になるようなものが少ないため、羽化に困難が伴う可能性がある。

また、水中に水草が少ないことで誘致できたトンボ類の幼虫の隠れ場が少ないため、捕食されやすく生き残りにくい状態にもなる。

対策としては、池の土砂が崩れないように勾配が急な部分には土留め工事を行うことが望ましい。杭の間に板や木材を入れていく土留め工法等がある。小規模であれば剪定枝などを杭の間に入れる粗朶工法等がある。

粗朶工法のイメージ写真は、下記の web サイトで見ることができる。

国土交通省 Web サイト 自然型川づくりー粗朶工法

<http://www.hrr.mlit.go.jp/river/kawatuku/sodasaku.html>

防水シート状の覆土の厚みが少なく、杭が打てない場合はコンクリートを土台にした杭を沈める方法がある。

土留めをするだけでは現在の波板が土留め工法に置き換わるだけであるため、抽水植物の生育できる場所を作ることが重要である。抽水植物のカンガレイやフトイなどの植栽を提案する。その際、平成 29～30 年に南長崎はらっぱ公園に設置したトロ舟ビオトープのように、プランターなどに植栽したものを池に沈める形にすれば、池の中に植物が広がりすぎないため、管理上もそれほど手間もかからない。隠れ場や羽化する場所が提供でき、トンボ類も生息しやすくなると思われる。

または水草でなくても植木鉢などの土台に園芸用の棒や竹などを挿したものを水中に沈めるだけでもトンボ類の羽化の際の足場となる。

土留め工事ができない場合も、前述した抽水植物のプランターかトンボの羽化用の棒を入れる対策は必要と考えられる。

水田については、一年中水を抜かないでトンボ類の幼虫が生息できるようにする方法がある。

水田の護岸の崩れについては、毎年、田植え前の代掻きをする際に土砂が流れ込ん

で浅くなった部分の泥を水田の周囲の畦に盛って、畦を固めることで土砂崩れを防止することができる。

池袋本町小学校のビオトープは比較的新しく造られた場所であり、これから植生が変化するにしたがって来訪する生物の種構成も変化していくと思われる。ビオトープは面積が限られているが、例えば水田の一角の草地の草刈り回数を少なくして草丈が高い草地を部分的に造ることでショウリョウバッタなども誘致できる可能性がある。

## 2) グラウンド沿いの緑地

グラウンド沿いの緑地には葉や茎にトゲのあるワルナスビが生育していた。児童が快適に運動や遊びができるように抜き取ることが望ましい。

---

平成 31（令和元）年度 豊島区動植物生態調査報告書

令和 2 年（2020 年）3 月

豊島区 環境清掃部 環境政策課

---